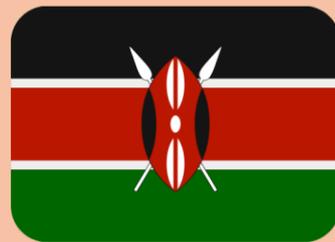


Pole Pole ケニア通信

2025.5



JICA 海外協力隊(環境教育) 和田温子

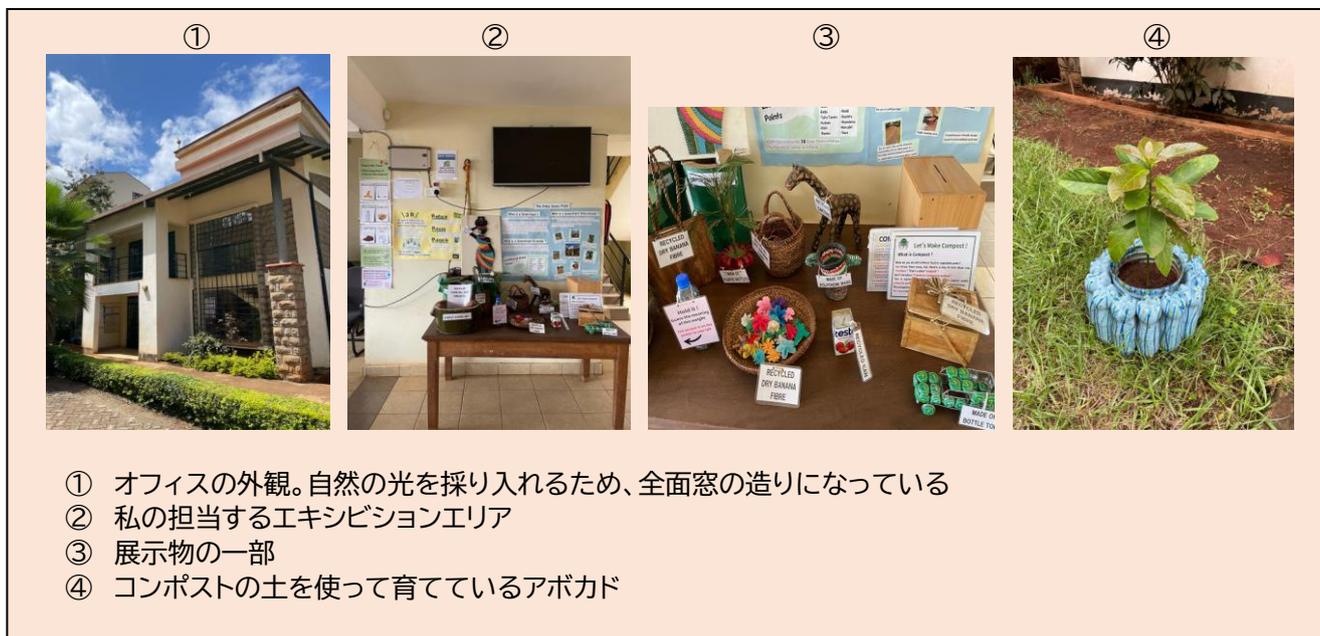
こんにちは！今回は【配属先での活動】について紹介します。

オフィスのエキシビションエリア

私の配属先は NEMA (National Environment Management Authority) と呼ばれる国の機関です。ケニアの環境関連の法や規則に沿うように、環境評価や環境に関わるライセンスを付与することや、廃棄物処理の仕組み等について地方自治体や地域と連携して進めていくことが主な仕事です。私はこれらの仕事には直接関わりませんが、同僚の現地視察に同行し、オフィスで開かれる会議には参加しています。また、配属先の建物自体は「グリーンポイント」と呼ばれ、環境に優しいモデルオフィスとして、ソーラーパネルや雨水タンク等の設備があります。

私は小中学校や大学での活動の他に、オフィスの一画にあるエキシビションエリアの改善を自分の活動として担当しています。オフィスには、クライアントが毎日のように書類提出や相談に訪れ、会議スペースとして利用されることもあります。その合間や待ち時間に見てもらうために、環境に関するエキシビションエリアがあり、私はこのスペースの改善を進めています。具体的には、ごみの分解年数や3R についての掲示物を作成し、リサイクルされた品物を集めて展示しています。

また、コンポストを作り、その土を使い、ペットボトルを利用したリサイクルポットで花を育てています。これらは、訪れる人の興味を引き、多くの人が手に取って見てくれます。日本人にとって馴染みのある壁新聞は、ケニア人には新鮮だったり、私にとっては目新しい缶のリサイクル貯金箱は、彼らにとっては当たり前で「なぜ驚くのか分からない」と言われたり、活動を通して文化の違いも感じています。



- ① オフィスの外観。自然の光を採り入れるため、全面窓の造りになっている
- ② 私の担当するエキシビションエリア
- ③ 展示物の一部
- ④ コンポストの土を使って育てているアボカド

環境イベントへの参加

NEMAの一員として、環境イベントに参加することもあります。ケニアの環境イベントで最も多いのは植林イベントです。ケニアの森林面積は約6%で、国土のほとんどは乾燥地帯に覆われています。日本の森林面積の約70%と比べるとその違いがよく分かります。そのため、ケニアのルト大統領は植林を積極的に推進していて、政府は2032年までに150億本の植林を目指しています。私もこれまで何度も植林イベントに参加しました。このようなイベント時には関係団体だけでなく、地域のコミュニティからもたくさんの方が集まります。植える木はマカダミア、アボカド、マンゴー等の実がなる木が多いのもケニアの特徴です。

他には、タウンやマーケットのクリーンアップイベント、環境に関するエキシビションを開催・参加することもあります。今年の世界環境デーには、NEMAが主催してクリーンアップイベントとエキシビションを行いました。エキシビションでは私の作成した展示物を並べ、ローカルエリアの人々に見てもらいました。同僚たちが積極的に来場者に展示品について説明してくれて、嬉しく思いました。

